

10月30日(土)・大会1日目 9:00~10:30 (組織論レビュー【1】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【1】

「ジェンダーと組織研究:フェミニスト組織理論によるフレーム化」

* 中村暁子 (北海学園大学 経営学部 講師)

清宮徹 (西南学院大学 外国語学部 教授)

* 代表報告者

[概要]

本稿は組織論におけるジェンダー研究の意義を検討する。

海外における組織論のジェンダー研究は多岐にわたるが、レビューにあたり、リベラル・ラディカル・クリティカルな3つのフェミニズムの視座とら上げた。その上で組織のジェンダー研究を「組織内部のジェンダー研究」と「ジェンダー生成組織研究」に分類し、既存研究を概観した。

組織内部のジェンダー研究は主にリベラル・フェミニズムの視点と主張に関連づけられ、ジェンダーによる障壁を明らかにし、改善方法を検討する。これに対し、ジェンダー生成組織研究はクリティカル・フェミニズムの立場から、組織化の中でジェンダーが形成される過程を描く。

これらがどのように補完的な関係にあるか、フェミニスト組織理論の観点から考察する。

日本における組織のジェンダー問題を考える契機としたい。

[参加者へのメッセージ]

長年にわたり低迷するジェンダーギャップ指数が示すように、日本のジェンダー問題は、根深く深刻です。SDGsへの関心が高まる中、組織もジェンダー問題への対応が求められています。

こうした状況に対し、組織研究はどのように貢献ができるでしょうか。性差が障壁となって、組織で活躍しにくい状況を作っているのであれば、これを理解して乗り越えることが、組織のパフォーマンスを最大化するために重要となります。組織を「ジェンダー」の視点から研究することは、日本の組織の大きな前進を可能とします。

このセッションを通して、ジェンダーと組織の関係に問題意識を持っていただき、組織のジェンダー問題を共に考える場にしたいと思います。

※組織論レビュー セッション: 発表 60分・コメント 20分・質疑 10分